コンクリート診断士のページ

四国支部

コンクリート診断士を目指したきっかけ

宮地　稚奈

今年で県庁に入庁して15年目となり，現在は道路改良や橋梁耐震事業に携わっています。

以前の担当業務では道路に関する苦情・要望を受ける立場にあり，多くの老朽化した構造物に対して，住民の方達の「大丈夫?」という不安に明確に答えられないでいました。特に老朽化した橋梁に対する地域の方々の不安は大きいものがあり，管理者として答えられるようになりたい。と思っていた事に加えて，実務経験が少ない事をコンプレックスに感じていました。そんな時にある研修会で出会ったのがコンクリート診断士でした。

診断士を目指して勉強を始めたタイミングで人事異動があり，橋梁耐震工事に携わる事となりました。高いスキルを持った技術者の方々と一緒に仕事をさせて頂けた事は，とても良い経験となっただけではなく，診断士を目指す上でも大変勉強になりました。

結果として資格を取得できた事は，仕事をする上での自信につながったと同時に，何よりもそこに至るまでの過程を経験できた事は私にとって貴重な財産となり，あの時勉強を始めて本当に良かったと感じています。

みやじ・わかな／
高知県高知土木事務所

診断士の新米として思うこと

兵頭　学

昨年，高知県コンクリート診断士会の皆様のご助力もあり，幸運にもはじめての受験で晴れてコンクリート診断士となりました。これまで橋梁の点検・補修業務に携わってきましたが，発注者からコンクリートのひび割れに関する相談を受ける際に，「診断士資格を持った方にお願いしたい」という話をされることがありました。今思えば，なんとか資格を取りたいと頑張ることができたのもその言葉があったからのような気がします。

診断士が信頼されているのは，試験の難しさもさることながら，諸先輩方のご活躍があってこそだと思います。私もその名を汚さぬよう研鑽に励みたいと思います。

診断士の仕事は，損傷を分析・調査して原因を特定し，今後の進行を予測し，対策を提案するという一連のプロセスを"見える化"することだと考えています。起きている現象を第三者から見ても合理的だと納得がいくように言語化することは，現象を理解する知識と経験がなければできないことです。今後も，知識と経験を着実に積み重ねて，良い診断士になりたいと思っています。

ひょうどう・さとし／正会員
㈱第一コンサルタンツ
設計二部橋梁構造課　係長

コンクリート診断士との出会いと今後の抱負

松田　秀和

コンクリート診断士制度が設立されたのが2001年度。当時，仕事をしながら大学に通っていた私は，コンクリート工学の授業中に，コンクリート診断士の存在を知った。「いつかは，私も…」と思い，2007年度に合格することができた。

現在は，我が社の橋梁・構造部で，主に橋梁の維持管理業務に従事している。幸いにも，短支間のRC床版橋から長支間の吊橋に至るまで，数多くの橋種，多種多様な損傷，劣化について触れる機会があった。

その中で生じている劣化は，構造形式や現場条件により様々であり，一概に損傷原因や健全性について評価するのは困難であると痛感している。新設構造物は，「理論，理想，必然性」によって設計するのに対し，既設構造物は，「実際，現実，偶有性」に配慮した対応が重要と考える。

現存するコンクリート構造物を，「少しでもよい状態で次の世代へ引き継いでいくこと」が使命と考え，研鑽を積みながら今後の維持管理業務に従事していきたい。

まつだ・ひでかず／
四国建設コンサルタント㈱
橋梁・構造部　設計3課　主幹

自分を磨くことのできる資格

朝倉　光司

私はコンクリート診断士の資格を取得して，今年で10年目になります。以前よりコンクリート構造物の健全性調査・評価業務に多く携わっていたことから，必然的な資格の取得になりましたが，今振り返れば，貴重な機会に関わるきっかけを与えてくれた資格だと感じています。

資格取得後は，同資格の研修会や有識者との交流の場で業務報告を行うなど，私の診断経験をアピールし，ご意見を頂く機会を得たことで，コンクリート診断士としてのレベルアップに繋ぐことができました。また，その継続もあり，コンクリート構造物の新たな劣化予測手法の構築に携わるなど，様々な体験の中で多くの診断技術に触れることができました。

コンクリートの診断技術は，奥が深く，幅の広い，日進月歩の分野です。今後もコンクリート診断士として自己研鑽を重ね，同資格者や有識者の方々との交流の場を大切にして，私自身に更なる磨きをかけていきたいと思います。

あさくら・こうじ／正会員
㈱四電技術コンサルタント　土木事業部
コンクリート・鋼構造グループ